

③アセスメントシート

氏名 水道橋 久

記入 相談支援専門員

六本木はやと

項目		介助が いるか	程度	項目		介助が いるか	程度		
日常生活面	起居動作	起き上がり	☐ 有	衛生保持	手洗い	☐ 有			
		寝返り	☐ 有		爪切り	☐ 有			
	姿勢保持	座位	☐ 有		耳掃除	☐ 有			
		立位	☐ 有		月経	☐ 有			
	移動	屋内	☐ 有	行 排泄	排尿	☐ 有			
		屋外 (徒歩)	☐ 有	排便	☐ 有				
	衣類着脱	着脱行為	☐ 有	食事全般	飲食行為	☐ 有			
		服装の選択	☐ 有		食事状況	☐ 有			
	整容行為	調理全般	食事の後片付け	☐ 有	調理	☒ 有	やったことがないため、支援が必要		
						安全確認	☒ 有	やったことがないため、支援が必要	
					入浴全般	入浴の準備 と片付け	☐ 有		
						入浴	☐ 有		
						家事全般	洗濯	☒ 有	やったことがないため、支援が必要
							洗濯物干し	☒ 有	やったことがないため、支援が必要
	掃除	☒ 有	やったことがないため、支援が必要						
	衣類整理	☒ 有	片づけなどは苦手、声掛けが必要						
	所持品整理	☒ 有	片づけなどは苦手、声掛けが必要						
	化粧	☐ 有	ペットメイク	☐ 有					
	特記事項 父親がある程度身の回りのこと（調理、洗濯、掃除など）はやってくれていた。久さんは、積極的に身だしなみを整えたり、片づけたりすることは苦手だが、声掛けがあればなんとか自分で行える。物が多く、部屋に服や小物類が溜まってしまう。日常生活でやらなければならないことの優先順位がつけられない。家事をやった経験はないが、援助があればできるようになると予測できる（これまでの生活の様子から、父親が予測）。朝起きるのが苦手なので、就労継続支援B型の事業所に通う時には遅刻が頻回になることが心配される。								
	コミュニケーション	困ったときに相談しているところ 生活上の支援機関、支援者など 相談支援センター「ひまわり」 ・ ・ ・ サービス等利用計画作成 相談支援 就労センター「スマイル」 ・ ・ ・ 利用予定の就労継続支援B型 グループホーム「ピアハウス」 ・ ・ ・ 利用予定のグループホーム 西村病院（内科・精神科） ・ ・ ・ 外来通院先 意思の表現方法 言葉でのコミュニケーションが十分できる。最初の上司が仕事を教えていた時は、時間がかかるが分かるまで教えてくれたので、本人は安心して仕事できていた。手順が分かれば、呑み込みが早い。ただ自分から積極的に質問するタイプではなく、困ったことや心配なことがあっても自ら相談することができなかった。周りの人は分かっていると思って仕事をすすめてしまうので、本人は分からずに少しパニックになってしまうことがあった。							
好きなこと 嫌いなこと	好きなこと 昆虫の図鑑を見ること。手先が器用なので木工が好き。買い物やゲームなど 嫌いなこと 怖そうな人・すぐに怒りそうな人								
交通機関の 利用	移動の方法 徒歩 これまで公共交通機関を利用する機会はなかったが、練習すれば利用できそう								
家庭生活	グループホームで生活をする予定 家庭での主な介護者 父親 介護者の状況 もととは大工。交通事故で右半身に麻痺が残り、自分のことをこなすことで精一杯な状況。								

経済状況	主な生活財源 生活保護を受給中。 預貯金 就労による収入 〇円 /月 〇円 ☒ 基礎年金申請中 ☐ 障害者特別手当 ☐ その他 金銭管理は、仕訳を手伝えその金額の中で使用することは可能。ただし欲しい物（菓子・ケーキなど）買いたい気持ちが高まると、浪費してしまうことがある。			
	項目	介助が いるか	程度	
行動面	行動面での 障害 1	こだわり行動	☒ 有	自分の手順があり、変更されるとパニックになる。
		徘徊	☐ 有	
		無断外出 無断外泊	☐ 有	
		錯覚・幻視・幻聴	☐ 有	
		被害妄想	☒ 有	近所の人たちからバカにされていると思っている。
		自殺願望・企画	☐ 有	
		不潔行為	☒ 有	声掛けがあれば身だしなみを整えるが、声掛けがないと着替えたりできない。
		異食行為	☐ 有	
		収集癖	☐ 有	
		物忘れ	☐ 有	
	行動面での 障害 2	反社会的行為 (盗癖、虚言など)	☐ 有	
		自傷行為	☐ 有	
		他者に対する 粗暴行為	☐ 有	
		器物に対する 粗暴行為	☐ 有	
		奇声や騒がしさ	☐ 有	
		パニック	☒ 有	物事の進め方が分らないとパニックになる。
		多動・行動の停止	☐ 有	
		思考障害	☐ 有	
感情・ 障害・ 思考	感情不安定	☒ 有	困ってしまうと感情も不安定になる。	
	過大・過小評価	☐ 有		

特記事項

特別支援学校卒業後は、製造部品を作る工場に就職していた。面倒見の良い上司の元では、素直に指示を受け入れ、元上司も根気よく教えてくれていたらしく、安心して働いていた。上司が変わり、あまり面倒を見てもらえなくなってからは、「上司からの注意が怖い」「仕事が集中して取り組めない」など心配を訴え退職した。

本人は、周りの人からは仕事のことなど分かっていると思われるタイプで、仕事が断れない。仕事で困っていても、自分から相談したりできず、どんどん抱え込んでしまい不安をたくさん抱えてしまう。

2年ほど自宅で引きこもり状態。父親が交通事故にあい、右半身に麻痺がのこり、本人の面倒が見られなくなった。

声掛けがあれば、家のことを少し手伝ったが、どのように進めれば良いのか分からなくなってしまったことが度々あった。調理、洗濯、掃除の仕方など根気よく教えてくれる人がいなかったため、経験が積み重なったのだと思う。

仕事については、以前の会社で人間関係がこじれてしまって離職したので、働きながら何か困ったときには相談できること、サポートを受けながら就労できるB型事業所の利用を希望した。

見守りの環境が整えば、力を発揮することは可能だと感じる。

《その他》

主治医からは、薬は軽いものなので、生活が安定し、精神的に安定すればいずれ必要がなくなるかもしれない。本人が困っている時に、周りが気づける関係性ができると、これ以上の薬の必要性はないと言う。そのためには生活の場でのサポート体制は欠かせない。SOSを出す力をつけられると思っている。

